

## より良いメディアを享受するための投資

金儒莉（高等部 最優秀賞）

皆さん、こんにちは。恵和女子高校の金儒莉と申します。

この間、クラスメートと流行歌の話をしたことがあります。その時、私はとても驚きました。その流行歌が収録されたCDを買ったといったら、「P2Pサイトでダウンロードすればただなのに、どうしてわざわざCDを買うの。」って言われたからです。まるでお金を払って音楽を聴くのは無駄使いだと言わんばかりの態度でした。

人々は、技術とインターネットの発達によって数多くのメディアを容易く手に入れるようになりました。だが、残念なことに、人々の意識は急速な科学の発達に付いていけない様子です。韓国、フランスなど、多くの国達が著作権侵害に対する取り締まりを強化し始めましたが、まだ大体の人達は私のクラスメートと似たような反応を見せます。

もちろん、お金を払わなくてもメディアを利用できるということはとても魅力的なことです。誘惑を感じるのも仕方ないことです。

だけど、考えてみてください。食堂で飲食しておいて代金を払わずに逃げてしまったら、食堂の主人はどうなるでしょう。収支の合わない商売を続けるわけにもいかないし、結局、主人は店を閉じるしかなくなってしまいます。

不法ダウンロードも食い逃げと同じようなものです。正当な代価を払わないことは著作者の創作環境を脅かします。メディアの販売も商売の一種ですし、メディア業界に従事する人達にも生計の問題があります。著作者が生きるために他の道を探して去って行けば、供給自体が減ってしまいます。メディアの食い逃げが全体的な質の低下をもたらすことになってしまうのです。目の前の支払いを避けて盗みごとを続け

て行ったら、長期的な損害を被ることになるかも知れません。

不法ダウンロードを犯す人達の中で自分がしていることがどんな状況を招くかを予想できない人は少ないと思います。それでも不法を犯し続けているのは、多分「私一人くらいは大丈夫」という考えを持っているからではないでしょうか。しかし、そう考えている一人一人が集まって、今はメディア市場を威嚇するようになりました。もう「私から」という考えが必要な時です。

私の母は作家です。文学の勉強を始めてからもう10年以上立ちますが、母は未だにピンとくる作品を書くことが出来ないと悩んでいます。いい作品を作り出すためには、多くの時間と血のにじむような努力が必要なのです。私はそんな母をすぐ傍で見ているうちに、著作料が単なるメディアに対する支払いだとは思えなくなりました。私は、著作料とは、いい作品を作り出すために著作者が頑張ってきた時間と努力に対する償いであり、これからもいい作品を作るために頑張ってくださいという励みだと思います。つまり、良質のメディアのための投資なのです。

皆さん、皆さんはより良いメディアを享受するための投資をしていますか。払うべき代償を払っただけで、未来に楽しめるメディアの質がずっと良くなるかもしれませんよ。ご清聴、ありがとうございました。

## 未来の人材になるためには

李知修（高等部 金賞）

“人材”という言葉を見たとき、皆さんは何を思い浮かべますか。

私は受験生として大学受験に備え、様々な大学のパンフレットを見ていますが、各大学が求める学生像には、ひとつの共通点があることに気がきました。それは“学生像イコール人材像”であるということです。つまり、大学は“これからの社会が求める人材を、受け入れようとしている”ということでした。

それでは、果たしてどうすればこれからの社会が求める人材になれるのでしょうか。私自身では良くわからなかったので、悩みに悩んだ末、知人達に聞いてみることにしました。

さっそく私は、その知人達に『あなたは、今、自分自身が社会が求めている人材だと思いますか』とひとりひとり質問してみました。皆さんは、彼らがどのように答えたと思いますか。私は彼らに質問を投げかける前、少なくとも、一人か二人は自信を持って「そうだ」と答えられるだろうと予想していました。しかし結果は大外れでした。私が質問した人全員が同じ言葉を口にしたのです。

「私は社会が求める人材ではないだろう。そんなに頭がいいわけでもないし、社会が求める人材とは程遠い思う。」きっとその人なりの特技があり、長所があるはずなのに、自己謙遜を超えた自己卑下に等しい言葉に私は驚いてしまいました。そして釈然としない気持ちになりました。

人間が人間以外の動物と違うところは、自分の能力を信じ、弛みない努力で未来に向かうことではないでしょうか。つまり、私たちもそうしな

ければならない。そんな力を備えているということではないでしょうか。人は誰でも可能性を持っています。どんな人であろうと、ひとつの分野においては「潜在的な能力」を持っていることは確かです。社会が求める人材となるということは、頭がいい、悪いの問題ではありません。自分の可能性を信じ、努力するとともに、自分の中にある潜在力を引き出せるかどうか、重要なのです。私は社会が求める人材ではないだろう、といった否定的な考え方は、何の役にも立たないのです。

では、どうすれば、自分の中にある能力を引き出し、社会が求める人材になれるのでしょうか。私が出した結論は、「自信をもつこと」です。自分の可能性を信じ、自分自身が社会、そして世界中の未来をリードしていこうと思えばいいのです。

大学が求める人材を入学させたいと言うのは、つまり、自分が社会が求める人材だと思うなら、志願して下さいという意味です。言い換えれば、自分を誇れる、自分の可能性を信じている人に入学してもらいたいということではないでしょうか。無限に広がる自分の可能性を、最初から否定してしまうような人を歓迎するはずがありません。

時代の変化に伴い、社会が求める人材像も変わりつつあります。そして、何よりも、その人の持つ可能性が評価されるようになってきました。皆さん、更なる未来の発展のために、私と一緒に、これからの社会が求める人材になりませんか。

ご静聴ありがとうございました。

## 平和な地球村への階段;理解し合う地球村住民

邊志炫 (高等部 銀賞)

皆様、はじめまして、私はプサン外国語高校2年生の邊志炫と申します。

私は今日、異文化の理解について皆さんとお話したいと思います。

今の世界は「グローバル時代」と言われていますね。それが、世界が一つ野村になっていく、つまり「地球村」という意味だということも皆さんよくご存じだと思います。

例えば、今私は制服姿ですが、私の私服のお気に入り、上着は韓国製で、ズボンは日本製、靴はアメリカ製です。世界を抱くこんな私の姿はまさしく国際人と言ってよいでしょう。

皆さんはいかがでしょうか。〈質問〉ほかの皆さんも似たような感じだと思います。

近年、科学技術の進展で、私たちは簡単に世界の情報やモノを手に入れられるようになりました。世界各国とたやすく連携できるようになったのです。では皆さん、皆さんは果たしてご自分がグローバル、すなわち、地球村時代にふさわしい生活を送っているとお考えですか。

私はそうではないと思います。他国の文化やモノと接していながらも、我々は彼らをお隣さんのように感じていないようです。彼らの文化や慣習が私たちの持っているそれと同じだということをまるで認識していないように見えます。それはつまり、私たちは他の文化をきちんと理解できていないということになります。

皆さん、2007年の夏、アフガニスタンで韓国人23名の拉致事件が起きたことを覚えていますか。

あの時、世間からは、ターリバーンが彼らを不当に人質にし身代り金を要求したとか、いろいろ言われていましたね。

しかし、私は、宗教という一つの文化について、彼らがアフガニスタン人のアイデンティティに触り、

大きな事件にまで至ったと考えます。

そして、何年前か、フランスのある女優が韓国の犬の肉を食べる慣習について、「野蛮人」と非難して話題になったことがありましたね？ お互いむきになり、多くの人が心を痛めていました。でも理性的に考えてみると、それはフランスと韓国の文化的違いから生じたことです。ということは、我々は犬を食用にもしていますが、彼らはペットとしてしか飼わないため犬を食べる韓国の文化を理解できなかったのです。しかし、誰も文化的衝突の面から考え直そうとしていませんでした。では、このようなことが起きる度に言い争うべきでしょうか。

皆さん、文化、特に異文化の理解とは何でしょう。多分、世界各国から作られた商品が皆さんお一人お一人の体に付いていると思います。その服や靴など、今皆さんがご自分の身につけていらっしゃる基本的な物から見ても、我々は極普通に多様な他の国、他の文化と接触しているんです。こんなにも他の文化と接することが多いのに、彼らと我々の相違点をうまく飲み込まないとさっき言ったような衝突は起らざるを得ません。このように、異文化と接する際には、その独自性を受け入れようとする姿勢が大切です。それがつまり、異文化の理解です。

世界はもうすでに一つの国の中でだけは住むことができないようになってきました。そんな中、我々自身が国際人としての高い意識を持ちながら、自分のアイデンティティを失わないで、他人のアイデンティティを認めることが大事だと思います。

皆さん、もっとやさしい、もっとお互いを理解し合える地球村を作っていきましょう！

これにて、私のスピーチを終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました

## ありふれた友情

玉修安（高等部 銅賞）

皆さんにとって大切な人は誰ですか？自分が泣いていた時そばに居てくれた人、元気づけてくれた人、やさしい温もりを与えてくれた人などいろいろあると思います。

今から私は「今の私」を作ってくれた掛け替えのない人を紹介していきたいと思います。

自分の中で「大切な人は？」と聞かれたときまず最初に思い出すのは幼なじみのジンくんです。かわっていると思われるかもしれませんが、私のベストフレンドは十年らしいの男の子なんです。彼には昔からずっと助けられてきましたが一番力になってもらったのは中学3年生の、進路に迷っていた時でした。私は当時外国語学校に合格するために日本語の勉強に一生懸命励んでいました。ですが時間が経つにつれ、戸惑い始めたのです。「私より日本語ができる子はたくさんいる」、「私はこの学校を目指して一年も経ってないのに合格できるわけがない」。それに第一、「何のためにこの学校を志願しましたか？」と聞かれた時何と答えればいいのかわからなかったのです。なぜなら私はただ、ちょっと日本語がわかることで名門高校に入れるならそうした方がいいと思っていたからです。ちゃんとした目標意識が無かった私はもうちょっと時間を持ってやりたいことについて考えてみることにし、結局志願するのをやめました。ですが挑戦もしてみないでやめてしまった私の態度が気に入らなかったのか周りから私のことをバカにするようになりました。「今まで築き上げてきた成績をなんで無駄にするの？」と聞かれるたびに私が説明してもいいわけにしか受け入れてもらえませんでした。そんな風にながかりした目で見られた時は学業のことで自殺する人たちの気持ちが痛いほど分かり、とても辛かったです。でも、一時的に両親にまで背を向けられて、ひとりでもがいていた情けない私に、彼は「お前のことを誰よりもよく知っていると思うから…」と言って手を差し

伸べてくれました。そして「お前の信じる道を歩け」と、私の背中を押してくれたのです。ずっと欲しかった一言を彼からもらった私は、もう一度ちゃんと両足を地につけてこの広い世界を見ることができました。これまでは見えなかったいろんなのが見えてくる感じでした。でも今も心に残るのはあの日「ありがとう」を伝えられなかったことです。自分だって不安なくせに、自分だって怖いくせに、そんな自分より私に気を遣う彼。偽りを纏って日常を繰り返すばかりの私が唯一、素顔をみせられる彼。私を必要としてくれる彼。いつも思っています。あなたに会えてよかった。あなたの声にもいつも助けられます。いつか私たちが全く逆の方向に向かって行く日がきたとしても、やがてお互いより大切なものが増えて会わなくなるとしても忘れないで欲しいです。同じ季節を過ごしたと言うことを、ふたりでふざけ合った教室の風景を、懐かしい黒板の落書きすらも。この絆を、世界が壊れるまで。

私は彼と一緒にだった記憶を全部抱きしめて大人になりたいと思います。そしていつか勇気を出して直接伝えたいです。「本当にありがとう。これからもありがとうね。」

周りからみればこれはドラマとかでよく見るありふれた友情物語にしか映らないかもしりません。でも、それでもかまわないのです。くだらないと思われるとしても私が必要とする人、私を必要としてくれる人がいるということは私の人生で最も上出来なことだと言い切れます。

これで私の話は終わります。

最後に、皆さんにもうひとつ質問したいと思います。皆さんには肩を寄せ会えるともだちがいますか？

なぜか「人は人に生かされる」と言う言葉が思い浮かぶこの頃です。

お聞きくださいますとありがとうございます。

## 夢の大切さについて

姜顯旭（高等部 優秀賞）

今日、多くの人たちが想像するだけで、心がわくわくするような夢を持っています、しかし私たちは生きている間知らず知らずのうちに、現実と妥協してその夢を忘れたまま生きていきます。そしてそれを「現実には忠実なだけだ」と言いながら自分が選んだ道を弁解し、合理化しようとします。

スペインの哲学者であるバルタザール・グラシアンは「夢を抱け、夢を持たぬ人は命を持たぬ人形と同じだ」と言いました。彼は夢こそが人を動かす原動力であり、夢を求めて一生懸命頑張るゆえに人としていられるということを伝えようとしたのかも知れません。

私にも、彼が言っていた、「命を持たぬ人形」のように日々を過ごした時期があります。ただし私の場合、夢を忘れたと言うより、まだ夢を持ってすらいなかった。と言った方が正しいでしょう。

あの頃の私は、周りの友だちがそれぞれの目標を目指して頑張っている時、これと言った目標も無く、ただ学校に通い、時間をつぶしていました。

「このままじゃ何もやり遂げられず、学生時代を終わらせてしまうんじゃないのかな」と真剣に悩んだこともありました。しかし、ある日偶然、兄からもらったゲームをした時に、初めて日本語に接し、それから日本語の勉強を始めました。映画やドラマの台詞をまねしたり、歌を歌ったり、知らない単語は辞書をひいて探したりして、韓国語と日本語の共通点や独特な違いを見つけて喜んでいました。そして、私が持っていた日本の歴史や文化への興味はますます大きくなり、今では日本と韓国がお互いをわかり合えるように手伝う仕事に携わるというのが私の夢になっています。

その夢を持ってからは自分が進むべき道に気付いただけではなく、かなり内気だった生き方もずいぶん変わってきて、以前より積極的で前向きに考え、振る舞うようになりました。そして私はそれを感じた時、夢を持つことの大切さがわかったような気がしました。

けれども、その「現実的」に生きる人達は言うでしょう。今の世の中は夢だけを持っていきられたものではない。理想とか希望のようなものよりも、社会的な評判や他人の視線に気遣って、無難に生きていく方がマシだ。と。

ですが私は周りの顔色なんかにはこだわらず、自分の夢を貫いて、この上なく幸せだ。とばかりにそれに取り組んでいる人達を見て、人は自分の夢を諦めないことを通してもっと熱く生きることができると感じました。

現実には忠実に生きれば、楽になれるかも知れません。

しかし私は、夢というかけがえの無い宝物を胸の中にしまい込んだまま日常に埋もれ、抜けがらのように生きるよりも、精一杯ぶつけてみた方が悔いを残すことなく、それからの道を真っ直ぐ歩いていけると思います。皆さんはどうですか。現実にくじけて夢を忘れてはいませんか。または、夢を持たずボンヤリと過ごしてはいませんか。

人はだれもが人生の中で道に迷ったり、通りすぎてしまったりします。しかし目標をもってそれを忘れずコツコツと努力し、自分の道を歩き続けければ、きっと自分が夢見ていた未来に出会えると、私は信じています。

## ありふれる情報、ニュースの取捨選択時代

朴藝珍（中等部 金賞）

はじめまして、釜山から来た海雲台女子中学校3年生、박예진と申します。

私は、ニュース、すなわち、メディアについて皆さんと考えてみようと思います。

ある地域で刑事事件が起きると、新聞やテレビなどのメディアはすぐに犯人探しを始めます。それから、疑われている人がいると、警察などが逮捕したり、指名手配したりしないうちから、その人に違いないと言わんばかりの報道が繰り返される傾向があるのではないのでしょうか。

そして、いかに早く報道するかに気を取られすぎて、時として「真実」をねじ曲げることもなったりしますね。また「メディアリテラシー」という感覚をもたない多くの人々は、報道された以上は事実と違いないと受け入れてしまうでしょう。

皆さんは2005年の「개똥녀」事件を覚えていますか。地下鉄で20代の女性が自分の犬がウンコしたものを後片付けをしないで、立ち去る姿の映像がインターネットで公開されるばかりではなく、マスメディアにも報道されたことであります。

この事件で彼女は無数の非難をうけました。皆さん、皆さんはその後、彼女がどんな生活を送っているのかご存知でしょうか。彼女は対人忌避症や精神不安定にまで陥っていると言われていま

す。このほかにも、マスメディアによる社会的に大きな問題を起こしたことは数多くあります。

皆さんもご存知の通り、2008年4月狂牛病と呼

ばれるBSEの問題が大きな波紋を起こしたことがあります。

私の家では、2種類の新聞を取っていますが、新聞ごとに主張する内容が食い違っていました。「アメリカ産牛肉を食べると人間BSEにかかるとか、逆にアメリカ産牛肉を食べても、人間BSE症状とは関係がない」などの報道でありました。しかし、科学的な真実は未だに明らかになっていません。なので、その報道はどちらも事実ではないということになりますね。

そして、今日になって、ニュースの報道について考えるようになりました。

メディア側にとって、報道はどの段階で、どこまで許されるのか、たとえ事実の報道であっても人権擁護との関係はどうなるか、bse事件のように報道が誤りであった場合はどうするかについて、考えざるを得ません。

ニュースとは、我々社会にとって、とても大きな影響を与えます。このような面から、

개똥녀やBSE事件は行き過ぎたメディアの問題点をよく現し、これからのメディアが進む方向を提示するよい例であると思います。

私が学校で学んだ報道観は、客観性に基づいた公正性にあります。

## 私の故郷

吳先珍（中等部 銀賞）

こんにちは。私は景明女子中学校の吳先珍と申します。

今年の夏はかなり涼しかったですね。それにもかかわらず休暇を楽しもうとする人々が海へ山へと向かいましたが、皆さんは夏休みいかがお過ごしでしたか？ 私は田舎にある祖母の家を訪ねました。そこは足を踏み入れた瞬間、心が安らかになるところ、私にとって故郷にひとしい場所です。そんなわけで私はそのことを“心の故郷”と呼んでいます。今日はその“心の故郷”についてお話したいと思います。

はっきりとは覚えてはいませんが、幼い頃はその自然が大好きでした。着いたらすぐ車から飛び降りて、そのへんの草や花を観察するのが癖でした。狭苦しい都会を抜け出して大自然を友に遊ぶ。今と思えば、なんて素敵なことでしょう。そうやって自然と接触できたことで今の自分のような元気な子になれたような気がします。

少し大きくなってからは、故郷に行く一番の楽しみは、祖父に書道を習う事になりました。祖父は大勢の村人たちから達筆と称賛されるほど書道がうまい方で、孫の私たちにも書道を教えてくれました。幼稚園児だった時は、書道を習うには幼すぎた私は指をしゃぶりながらただまじまじと見つめるのみでした。それがすごく悔しくて一日中駄々をこねていました。おじいさんは微笑みなが

ら「小学校に入ったら教えてあげるから、もうちょっと我慢なさい。」とおっしゃりました。そして小学校一年生になったとき、約束どおり祖父に筆の取り方からきちんと学びはじめました。もちろん書道自体も面白かったですが、いつも無口な祖父が「よくやったね」と頭をなでてくださるのが嬉しくて嬉しくて仕方ありませんでした。「一」の文字をうまく書けるようになった頃、祖父は亡くなりました。祖父が亡くなったその日から私の“心の故郷”はおぼろけな悲しみの色を帯びるようになりました。

それから何年も経った今、独りで暮らしている祖母を慰めるために故郷に行くたびに、毎回ごちそうを作ってもらったり、お小遣いもらったりして、気を使ってもらってばかりで、むしろ迷惑になっているのかもしれないな。と思うこともあります。この恩返しは立派な大人になったとき必ずしますので、どうかその時まで優しいおばあさんが温かく迎えてくれる、幼い頃の思い出がところどころに見られる心の故郷に、弱虫の私を支えてほしいと思います。

振り向くことすらできない厳しい世の中、誰にでも日々生きて行く事がつらい時があるでしょう。もしそれがあなたを襲ったなら、深く息を吸って心に浮かべて見ませんか。大切な人が微笑みながら迎えてくれる穏やかな場所、ふるさとを。

## 皆の理解し合う世界の為に

李娥琳（中等部 銅賞）

こんにちは。  
こんなに大切なこの場所、私はこの場所を借りて私の夢について話してみようと思います。  
。ですがその前に、そのきっかけになる話をしてみたいと思います。  
私は日本語を一人で勉強しました。漫画やアニメが好きで日本語の勉強をしましたけど、日本の文化が知りたいとかお互いの考えの差を知りたいと思ったことはなかったと思います。  
そんな私に日本人と出会い、お互いの考えについて語り合う機械がありました。その出会いで、私はコミュニケーションの大切さを習いました。  
友人の家に留まっていた日本人の友人が韓国に来て印象深かった物をいくつか私に話してくれた事があります。日本のキムチより遥かに辛い韓国の ' 김치 ' と、日本人とはずっと違う韓国人などがそれでした。東大門で人波にまもされて、となりで荷物を背負って歩いてた方とぶつかったサヤカは、落ちた荷物を拾い、誤りもせずのっしのっしとまた歩き出す事を見てすごく驚いたと言いました。日本人だったらそんな風に行ってしまうなかったかも知れないのにね。  
私はその話を聞いて、日本人と韓国人がお互いのことについて知らない部分が本当に多いと実感しました。人とぶつかったときは形式的でも必ず誤らなきゃならないと思う日本人と、必ず誤らなくてもその場を去ってしまう韓国人。こんな細かい事が集まって誤解を産み、二つの国をさらに遠ざかってしまうのでしょうか。その時はちゃんと言えなかったんですけど、日本人はお互いを配

慮し、少しぶつかっても誤るのと同じく、韓国人が誤らないそれなりの理由があると思います。韓国人はこんなに込んでる所でぶつからずに過ぎていくのは難しいからその程度は理解してくれる配慮が潜んでいるのでしょう。  
お互いのことをよく知らなければ自分の立場から相手を判断してしまいます。近く寄り添ってあるのに交流の歴史の短い韓日はさらに問題が多くなります。お互いの事を知ろうとしないから私達はお互いのことを誤解してしまうのです。  
この事件をきっかけでインチョンに十五年も住んでいらっしゃってる、日本人の先生と対話することになりました。先生もいまだ " 日本人だから " という偏見に満ち溢れた目付きから抜け出すことはできなかったとおっしゃったことがあります。それでいつも行動に気を使うと。でも最近では日本語を習う人たちも増え、先生に対する視線も少し変わったとおっしゃいました。それほど、交流は大切だと言うのでしょうか。  
こうして、漫画やアニメが好きで始めた勉強ですが、今は少し違うところにも興味ができました。韓日、お互いをもっと理解するには小さな経験の積み重ねが必要です。大きい堤防を崩すのは小さな穴といいますね。私はその小さな穴が即ち関心や経験だと思います。そして、その小さな穴を作る仕事をするのが私の夢です。偏見や誤解のない関係を作ると言う素的な仕事に役立つ私になれるように、小さくても私のできる全てをやってみたいと思います。  
最後まで聞いてくださって、ありがとうございます。